

スポーツ人文・応用社会科学系

梶ちか子

研究内容紹介

<専門領域>

保健体育科教育学

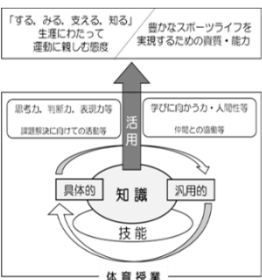
舞踊教育学

研究キーワード1

「知識」と「技能」を往還する体育授業の指導法の開発

体育分野の学習すべき「技能」に対応した「知識」は、体育授業の実践、保健体育科で獲得を目指す態度や資質・能力の根幹となります。それ故、「技能」と関連させた「知識」を明確にし、それらの「知識」を活用した授業実践モデルを構築することは、体育授業の充実や児童生徒の生涯スポーツに繋がる資質・能力の育成を目指す上で、大変重要です。

そこで、「知識」と「技能」との関連を重視し、「わかって」「できる」生徒を育成するための様々な教材を開発しています。ダンス領域では、表現系ダンスとリズム系ダンスについて、技能の評価観点をまとめた「技能評価観点構造図」を作成し、さらに、学習指導要領に基づいた発達段階ごとの図を完成させました。



	小1・2年	小3・4年	小5・6年	中1・2年	中3・高1年	高2・3年
表現系ダンス						
リズム系ダンス			リズム系ダンスの指導なし ※表現orフォークダンスを指導			

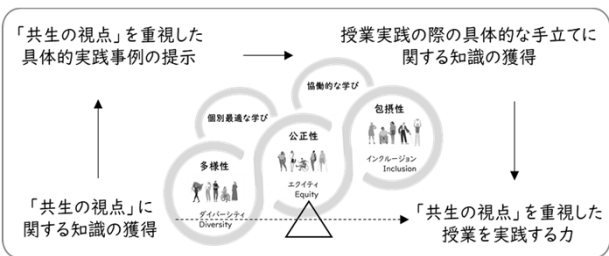
研究キーワード2

教員養成段階における「共生の視点」のを踏まえた授業実践力の育成

現行の学習指導要領では、「原則として男女共習で学習を行うこと」と明記されています。しかしながら、現場で指導する教師は、男女別習での授業経験が長く、今までに実践していない新しい授業形態に対する戸惑いから、自信を持って「共生の視点」を重視した授業実施に踏み込めない現状があります。

一方、教員養成段階(大学)では、教員としての最小限必要な資質能力を学生に身に付けさせることが求められています。したがって、大学の授業を通して、教師を目指す学生には、「共生の視点」を重視した体育授業を実施できる力を身に付けさせることが必要不可欠です。

そこで、現在、「共生の視点」を重視した体育授業を実践できる教師を養成するための教育プログラムを開発しています。



研究キーワード3

教員養成段階におけるICTを活用した運動観察力、授業構成力の育成

体育実技の領域・種目に関する「実践的指導力」の養成には、示範等に必要な教師自身の運動技能の向上のみならず、動きを観察し評価する力、すなわち運動観察力を育成することが重要です。

現在、鹿屋体育大学では、数多くの実技科目が開設されていますが、特に「関連実技科目」の一部の科目は教育職員免許状の必修科目として設定されています。つまり、中学校・高校の保健体育教員として必要な「実技指導力」を育成する必要があります。そのためには、実施されている教育内容、特に修得すべき運動技能を整理し、中学校・高等学校の学習指導要領の内容も反映させた上で科目別に学修課題の明確化・標準化を図ること、さらに修得した資質・能力の評価規準及び成績評価判定基準を学内のみならず学外に公表することは、鹿屋体育大学の実技における学力保証にとって重要な意味を持つと考えられます。また、学生のみならず保健体育教員の「実技指導力」を育成・向上させ、評価する基準の提示ともなりうるのではないのでしょうか。

そこで、一昨年度から、「関連実技科目」の担当教員と連携し、それぞれの科目の教育内容を整理した上で、各種目における主要な技能を抜粋し、評価規準及び判定基準を作成しています。さらに判定基準に沿った試技映像やそれぞれの技能を高めるための指導法について、学生を見本として撮影・編集し、映像コンテンツを作成してウェブサイト構築し、学内外へ発信しています。

今後は、映像コンテンツを校種別・発達段階別に発展させるとともに、自主学習が可能なコンテンツについても作成・充実させていきたいと考えています。

多様な感じ：楽しい、気楽な、軽快な、柔らかな、強いなど（身体感覚）

多様な感じ：楽しい、気楽な、軽快な、柔らかな、強いなど（身体感覚）

多様な感じ：楽しい、気楽な、軽快な、柔らかな、強いなど（身体感覚）

多様な感じ：楽しい、気楽な、軽快な、柔らかな、強いなど（身体感覚）

ダンス A評価

ダンス B評価

ダンス C評価

ダンス A評価

ダンス B評価

ダンス C評価

ダンス A評価

ダンス B評価

ダンス C評価

多様な感じ：楽しい、気楽な、軽快な、柔らかな、強いなど（身体感覚）

多様な感じ：楽しい、気楽な、軽快な、柔らかな、強いなど（身体感覚）

多様な感じ：楽しい、気楽な、軽快な、柔らかな、強いなど（身体感覚）

ダンス A評価

ダンス B評価

ダンス C評価

ダンス A評価

ダンス B評価

ダンス C評価

ダンス A評価

ダンス B評価

ダンス C評価